がん診療あさひ

8号
2021年1月
発行

～がんと診断されたり、治療を受けるときに、役立つ情報をまとめました～

「薬剤局」のご紹介

薬剤局はいくつかのがん治療の中でも特に抗がん剤治療と深くかかわっている部署です。医師を始めとする医療スタッフの一員として、薬剤師が個々の患者さんにあった治療であるかチェックを行っています。点滴の抗がん剤については、清潔な場所で正確な調製を行うなどその職能を日々発揮しております。

治療を始める患者さんやそのご家族の方も、初めて抗がん剤治療を行う場合は副作用のことで不安になると思います。その時は薬剤師が治療の説明に伺いますのでどうぞお尋ねください。薬剤師は皆さんの不安が少しでも解消するような情報の提供ができます。治療継続中に困ったことに対しては一緒に考え解決していきましょう。

（薬剤局　菅谷 敏和）

当院は、「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。

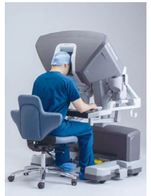
地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

〒289-2511 千葉県旭市イの1326　TEL.0479-63-8111（代）　FAX.0479-63-8580
www.hospital.asahi.chiba.jp

ダヴィンチ（ロボット支援腹腔鏡下）手術について

ダヴィンチ（ロボット支援腹腔鏡下）手術（以下【ロボット支援手術】）とは身体に数か所の小さな穴を作り、そこから内視鏡やロボットアームを入れて、医師が手術部位の3D画像を見ながらロボットアームを操作する手術を指します。日本で保険診療で行ったのは2012年のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術でした。以後、泌尿器科領域では腎、膀胱、外科領域では胃、直腸、肺、縦郭、婦人科領域では子宮と徐々に手術可能な範囲が広がっています。

開腹手術との違い



①傷口が小さい
内視鏡やロボットアームを挿入する穴は直径5～2mm程度であり、開腹手術に比べ小さな傷で行えます。

②視野が良好
肉眼では視認できない個所も内視鏡で拡大してのぞくこともでき、良好な視野で手術ができます。

③正確な操作が可能
鋏や鉗子など小さな道具を360度思いのまま操作でき、正確な操作ができます。

これらの特徴により、開腹手術に比べて出血量が少なく、手術後の回復も早く、早期退院、早期社会復帰が可能となります。

当院のロボット支援手術の実際

旭中央病院では2013年1月に前立腺全摘除術に導入して以来、徐々に適応を拡大し、現在は泌尿器科・外科・婦人科の手術に対応しており2020年11月現在合計538例の手術を行っております。適応がある場合は担当の医師と相談してみましょう。

（泌尿器科　島 敬之）

緩和ケアチームについて

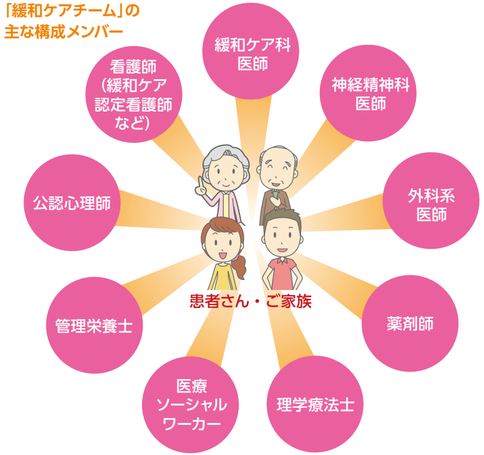
●今の日本では、がん診療に携わっている医療従事者であれば、「鎮痛薬の開始（医療用麻薬を含む）」や「相談部門への紹介」など、ある程度の「基本的な緩和ケア」は行うことができます。しかし、実際に多くの患者さんが苦痛を感じている、「鎮痛薬の調整に難渋する痛み」「複雑な問題が背景にある不安」「自分の存在が危うくなったと感じる時のつらさ」などに対しては、「急を要する対応」や「複雑な対応」が必要となります。そのため、最近では、がん診療を行っている病院を中心として、全国の多くの病院に、多くの専門職種からなる「緩和ケアチーム」が設置され、いつでも「専門的な緩和ケア」が受けられるようになっています。

●当院の「緩和ケアチーム」には、緩和ケア科医師、神経精神科医師、外科系医師、薬剤師、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、公認心理師、看護師（緩和ケア認定看護師など）が参加しており、「患者さんのために今できること」を一緒に考えています。

●体や心のことで何かお困りでしたら、主治医や担当看護師を通じて「緩和ケアチーム」にご相談ください。

※なお、本来、緩和ケアの対象は「がん」などの悪性疾患に限らないのですが、当院では現在、対象を「がん患者さん（当院に通院中、あるいは入院中）のみ」とさせていただいておりますので、ご相談される際にはご注意ください。

「緩和ケアチーム」の主な構成メンバー



がん相談支援センター

「がん」について、お気軽にご相談ください

「がん診療連携拠点病院」には「がん相談支援センター」が設置されています。

当院では、社会福祉士・看護師が相談に応じます。必要に応じて、医師・薬剤師・管理栄養士等と連絡を取って、お話を伺います。

〈相談例〉

●がんと言われて頭が真っ白になってしまい、誰かに話を聞いてほしい。
●どのように治療に取り組んだらよいでしょうか。
●がんの治療ってどのくらいお金がかかりますか？
●仕事を続けるのは無理でしょうか？
●介護が必要になったらどうしますか？
●緩和ケアについて知りたい。

など

セカンドオピニオンについては、「紹介患者センター」で相談に応じることができます。（医療機関検索・相談方法・費用・予約について）

がん相談支援センター　2号館1階　医療連携福祉相談室
時間／月～金（祝日・年末年始を除く）8:30～17:15

相談は無料です。
※なるべく予約していただくことをお勧めしています。
※当センターで医師と直接お話をすることはできません。社会福祉士・看護師がお話を伺い、担当医にご相談内容をお繋ぎすることは可能です。

がんと診断されても、すぐに仕事をやめないでください！

―― がん患者さんの就労支援について ――

がん治療と仕事を両立している患者さんはたくさんいます。

当院の『がん相談支援センター』には、がんの治療と仕事の両立について相談できる『両立支援コーディネーター』がいます。

がんと診断されて、すぐに退職を決めるのではなく、担当医や産業医とも相談しながら治療計画に合わせて、働き続ける方法を一緒に考えましょう。

まずは担当医・看護師にお声かけください。

がん患者サロン　乳がん患者サロン　開催について

がん患者サロン
毎月第3月曜日
14:00～16:00
参加費　無料
事前申し込みは不要です。

乳がん患者サロン
毎月第3木曜日
14:00～16:00
参加費　無料
事前申し込みは不要です。

※今後の開催予定につきまして、詳細はお問い合わせください。

抗がん剤の副作用と対処法について

抗がん剤による副作用は、使用する薬剤によって異なります。

今回は比較的よくある副作用とその対処法について紹介しますが、実際に使用される抗がん剤でどのような副作用が起きやすいのかはそれぞれの担当医に相談してください。

1 吐き気

抗がん剤を使用して数日から1-2週間程度の期間、吐き気や食欲低下といった副作用が起きることがあります。

対策として吐き気止めの薬を使います。吐き気止めの効果が不十分であれば、薬の量を調節することもあります。食事がとれないときは、なるべく水分をとるようにしてください。また、匂いに反応しやすくなることもありますので、あっさりとした食べやすいものを選ぶと良い場合があります。

2 脱毛

抗がん剤を使用して2-3週間たった後くらいから髪の毛が抜けることがあります。髪の毛以外にも眉毛などが抜けることもあります。

抗がん剤による脱毛は一時的なもので抗がん剤をやめればまた生えてきますが、脱毛している間は柔らかい素材の帽子をかぶる、ウィッグ（医療用のかつら）を使用するなどの対策をします。

3 口内炎

口の中の粘膜が荒れて炎症を起こし、痛みを伴うことがあります。

口の中を清潔にし、うがいなどで保湿をすることが対策になります。また、歯口科で口腔ケアが必要になる場合もあります。

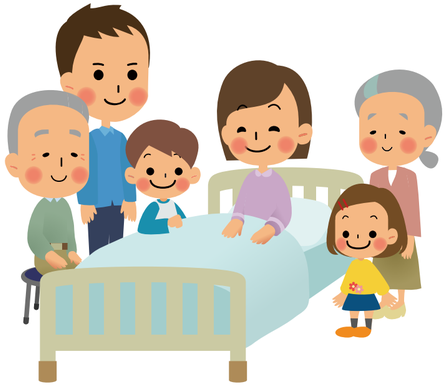
4 骨髄抑制

白血球や赤血球、血小板といった血液の中の成分が少なくなることがあります。

白血球が少なくなると熱が出たり、ウイルスや細菌への抵抗力が弱くなったりしますので白血球を増やすための注射を行う場合があります。また、感染症が悪化することがありますので入院管理をすることもあります。

赤血球や血小板が少なくなった場合には輸血を行う場合があります。

そのほかにも抗がん剤治療中に体調の変化（手足のしびれや味覚の変化など）や、心配なことがあった場合には、担当医や病棟・化学療法センターのスタッフにいつでも相談してください。



（産婦人科　高橋 健太）

当院の治療や医療のご紹介

多面的な治療で、患者さんを支えます

手術療法について

手術療法とは、がんを切り取って治す治療法です。がんを完全に治すための治療法として、ほとんどの場合手術療法が選択されます。

手術はからだに負担のかかる治療法ですので、これをなるべく軽くするためにいろいろな手術が開発されています。胃カメラなどの内視鏡による手術では、皮膚にメスを入れることなくがんを切除できます。また、腹腔鏡や胸腔鏡による手術では、従来の開腹や開胸による手術に比べてずっと小さな傷でがんを切除することができます。

現代の手術療法は、チーム医療として行われます。たとえば、手術に加えて抗がん剤や放射線を併用する場合は、外科・内科・放射線科が一緒に治療にあたります。また、術前の準備段階から術後の回復期まで、外科医・麻酔医・看護師・薬剤師・理学療法士など多くの職種の人たちがチームとして診療に加わり、患者さんが安全に手術療法を受けられるような体制が作られています。

（外科　永井）

緩和ケアについて

- 「治療」には、「『病気』の治療」と「『症状』の治療」があり、それらは必要に応じて同時に行われます（『病気の治療』が『症状の治療』を兼ねる場合もあります）。「病気の治療」は、副作用などのために、体の具合によってはできなくなることもありますが、「症状の治療」は、「病気の治療」をしているかどうかに関係なく、体の具合に応じて「その時にできること」が必ず何かあります。
- 「緩和ケア」とは、「病気が分かった時」「『病気の治療』をしている時期」「『症状の治療』が中心となった人生の最終段階」と、病気の種類や時期に関係なく、患者さんや患者さんを支えるご家族が抱えている「体や心のつらさ」を軽くする医療です。
- 「緩和ケア」には、「症状の治療（鎮痛薬の調整など）」「様々なケア（看護ケアだけでなく、社会生活や経済面での不安に関する相談なども含まれます）」「療養環境の整備」など様々な関わり方があり、いずれも患者さんの生活の質（QOL）向上につながり、患者さんが自分らしく生きていくことを支えます。

（緩和ケアセンター　齋藤）

患者さん

放射線治療について

治療の特徴

X線や放射性物質が出すビームを利用して、手の届かないところに治療ができるという特徴があります。各診療科、画像診断部門と協力して問題を見つけ、解決を目指しています。

- 外照射
  - 一般的な外照射（ほぼ全身が対象で乳房温存療法、食道癌、骨転移など）
  - 高精度治療　IMRT 強度変調放射線治療（前立腺癌など）、定位放射線治療（脳腫瘍、肺癌、肝臓癌など）
- 腔内照射（子宮癌）
- 内用療法　ゾーフィゴ注（骨転移）、ゼヴァリン注（悪性リンパ腫）

（放射線治療科　太田）

化学療法センターでの治療について

「手術」「放射線治療」と並んで、がん治療の３本柱のひとつに「化学療法」があります。近年、新しい抗がん剤の開発や副作用を軽減する支持療法の進歩などにより、治療効果が向上し、標準化された化学療法が適用されるようになりました。このように**有効な化学療法を多くの患者さんが受けるようになり、生活の質（QOL）が重視されるようになったことから化学療法は外来治療が中心となり、安全で質の高い医療の提供の場として化学療法センターが設立され全科の治療がここに集約されています。**化学療法センターの病床数は40床（リクライニング８、ベッド32）あり、スタッフはがん化学療法看護認定看護師１名を含む看護師７名と医師１名が常駐しています。1人の患者さんを包括的に支えていく上での治療やサポートの質を高めるために医師、看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、リハビリ療法士によるチーム診療を行ない、すべての患者さんに満足していただけるよう心がけています。

（化学療法科　中村）